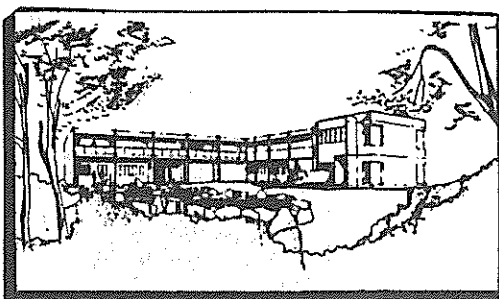


中央聖書学校 〈C・B・C・だより〉



戦後の荒れ果てた状態の中で日本の救済には、まず伝道者の養成が急務であると悟られ、焼跡に中央聖書学校を立てられ、伝道者養成に生命をかけられた弓山校長先生の先見者としての働きに頭の下がる思いがすると共に心からの敬意を表します。

また中央聖書学校建設に犠牲を惜しまなかつた宣教師団には感謝に堪えません。更には牧会の責任を負いながら

三月十六日に宣百ホールで中央聖書学校の第三十二期生の卒業式が行われました。私も卒業式に出席を許されてほんとうに感謝でした。式が進むにつれ三十年前の自身の卒業式のことを思い浮かべ感慨無量でした。卒業証書のナンバーが三百七十番台であることを聞かされ随分多くの方々がこの中央聖書学校から巣立って、日本全国に、あるいは海外にまで飛立ち、その大多数が教団内で活躍しておられることを思う時、神の恵みの深さと、神の御業のすばらしさに深く感動を覚えました。

現在の教団・教会の発展はひとえに中央聖書学校に負うところがどんなに大きなものであるかが悟られ主を崇めました。

戦後の荒れ果てた状態の中で日本の救済には、まず伝道者の養成が急務であると悟られ、焼跡に中央聖書学校を立てられ、伝道者養成に生命をかけられた弓山校長先生の先見者としての働きに頭の下がる思いがすると共に心からの敬意を表します。



学校に期待する

津村 昭二郎

も神学校教育のために涙と祈りと教鞭のための犠牲を払われた諸先生方に感謝し、神の御恵が豊かにありますように祈ります。

これからの教団並びに教会の発展も今後の神学教育にかかっていると云っても過言ではありません。

学校側のお話によりますと、現在は大学卒の献身者が多いということですが、これは時代にふさわしい、喜ばしいことだと思います。それだけに、学校側としてもカリキュラムにおいてもそれに即応したプランを立てなければならぬので大変なことでしょう。

教会側としてはいろいろな希望があると思います。もし、私が個人的に希望を述べさせていただけるとしますと、やはり学校としては大きな夢を抱いて将来を見通した目標をもって神学教育に取り組んでいただきたいものです。牧師、伝道者はリーダーとしての立場なのですからそのような訓練が必須です。また精神的には仕える態度、即ち謙遜で、従順さを身につけることが大切でしょう。最も大事なことは、召して下さった神様が各自に望んでおられるような器になるよう教育されること

で祈りの人、愛の人、さらに救済の情熱が必要だと思えます。例えば、信仰の燃えた人、聖霊に満たされて奉仕する人です。そのためには種々な訓練が必要とならなければなりません。各自が基礎的なことをしっかりと学び、きつと卒業後にも学びつづけ、よい器が造り上げられることでしょう。

また、その人の能力が充分発揮できるように、専門的な学びに力を入れてほしいと思います。例えばただ単に、日曜学校教師ができる。個人伝道が上手だ、音楽が秀でているというだけでなく、教会において、日曜学校の教師の訓練ができる。また個人伝道者を養成出来る。また音楽の専門分野では指導できるように会得して卒業できたら、きつと主に用いられるでしょう。それと共に、教会で信徒が経験している以上の訓練を身につけることが大切です。例えば、断食祈禱、徹夜祈禱の経験は当然なことだと思います。特に牧師、伝道師はなんでも出来る必要が必ずありますが、現在は専門的なことがらにエキスパートになることだと思います。そうすれば教会で大いに用いられることでしょう。中央聖書学校の学びはその人の将来を左右するのです。学校に期待しています。学校を建てて下さった主に期待します。



右は校庭から見た図書館
階下は折袴室

▲仁司先生御遺族から、先生の蔵書約一千冊が学校図書館に寄贈されました。中には原書も数多く、今ではなかなか手に入りにくいものも多くあり、搬入を手伝った神学生たちは早速、整理もそこそこ本の山に首をつっこんでいました。

中央聖書学校のカリキュラムについて

山城 晴夫

本校は高等学校卒業者を対象として四年間で卒業するためのカリキュラムを組んでおります。人文科学、社会科学、宗教学、外国語を含む一般教養三十四単位と、聖書神学、組織神学、実践神学、歴史神学、神学語学の専門科目九十単位、合計百二十四単位を修得

▲吉山宏教授が博士号を受けました。去る四月二十五日、小岩教会において、カリフォルニア神学大学々長、ホランド・ロンドン博士から、「名譽神学博士」号を授与されました。先に博士号をお受けになった、弓山師・伊藤師に加えて、吉山師の授与を見ることでできましたことは、中央聖書学校にとりまして、まことに喜びに堪えないところです。

することになっております。なお、文部省令による短期大学以上の卒業者は教授会において、一般教養科目のあるものを認定して、二年に編入することができるようになっております。(この場合は三年で卒業することが出来ます。)

聖書神学部門には、旧約研究、新約研究、聖書緒論、解釈学が含まれ、弓山、伊藤、細井、山城、石原、吉山、佐布(と)の各師が担当しています。組織神学部門には教理、組織神学、聖霊論が含まれ、弓山、佐布両師が担当しております。歴史神学部門では教会史、アッセンブリー史、などがあり、白石、上原両師が担当、実践神学部門では、実践神学、説教学、伝道学、会議法、キリスト教教育、音楽が含まれ、伊藤、

中央聖書学校 学生募集！

宣教のビジョンに燃える若者よ！
駒込山に來りて学び祈ろう！

入学資格 (1)受洗後二年以上を経た忠実な教会員であること。
(2)高等学校卒業以上の者。

出願手続 所定の入学願書に必要事項を記入し、次のものを添えて本校事務局に〆切期日までに提出すること。

- (1)最終学年の卒業または修業証明書、成績証明書。
- (2)医師の健康診断書。
- (3)戸籍抄本。
- (4)入学検定料 5,000円。

試験日 追って通知。

試験場 中央聖書学校。

◎入学案内書は、教会の牧師に申し出て下さい。多数の献身者が応募されることを期待して折っています。

発行・一九八二年五月十五日

事務局・〒170・〇〇三(九二八)四九二五

東京都豊島区駒込三十五二〇

中央聖書学校

編集者

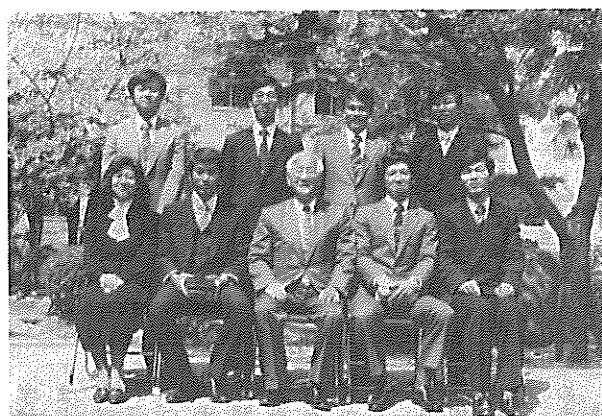
細井修一

上原和雄

(新入生)

献身の誓い ー 時と場所と

与えられた聖句 ー



西脇 博史 昭和二十九年生

昭和四十四年八月十二日 南関東ベ

ンテコステ聖会(瑞穂キリスト教会)

「しかし、聖霊があなたがたの上に

臨まれるとき、あなたがたは力を受け

ます。そして、エルサレム、ユダヤと

サマリヤの全土、および、地の果てに

まで、わたしの証人となります」

使徒の働き一・八。

久保江 努 昭和十八年生

昭和五十六年二月二十三日午前五時

北九州市門司区の自宅にて。

「だれでもわたしについて来たいと

思うなら、自分を捨て、日々十字架を

負い、そしてわたしについて来なさい」

ルカ九・二十三。

安田 真 昭和二十四年生

昭和五十年五月全国聖会にて

「神は愛なり」

前列右から 渡辺、久保江、弓山校

長、阿野、増田

後列 安田、西脇、小林、増田

渡部 臨 昭和三十三年生

昭和四十九年八月(高校一年の時)

福島県土湯福音堂

「そこで、イエスはパンを取り、感

謝をささげてから、すわっている人々

に分けてやられた。また、小さい魚も

同じようにして、彼らにほしいだけ分

けられた。」ヨハネ六・十一。

阿野 俊郎 昭和三十二年生

高校二年、夏のキャンプ・沖縄ケラ

マ島にて

「わたしはだれをつかわそうか、だ

れがわれわれのために行くだろうか」

その時わたしは言った「ここに私がお

ります。私をおつかわし下さい」

イザヤ六・八。

小林 章弘 昭和三十三年生

昭和五十一年十二月 召命について

長い間祈っているうちに、大学からの

帰りの電車の中で、つぎの聖句を強く

示され献身の決意をしました。

「だれでもわたしについて来たいと

思うなら、自分を捨て、自分の十字架

を負い、そしてわたしについて来なさい

」 マタイ十六・二十四。

増田 哲之 昭和二十八年生

昭和五十三年十一月、関東聖会にて、

「全世界に出て行き、すべての造ら

れたものに御言葉を宣べ伝えよ」

マルコ十六・十五。

増田 篤子 昭和三十四年

昭和五十五年二月十一日

「神は御心のままに、あなたがたの

うちに働いて、志を立てさせ、事を行

わせて下さるのです」

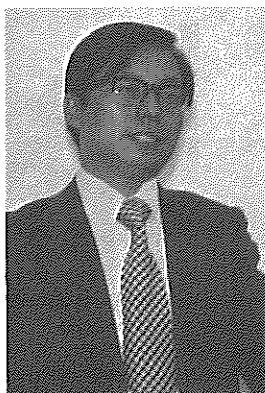
ピリピ二・十三。

C・B・Cの数字

卒業生総数	三七六名
在校生	
第一学年	二名
第二学年	六名
第三学年	三名
第四学年	七名
合計	十八名
(内男子十二名、女子六名)	
教授	九名
講師	四名

仁司先生の思い出

昨年(昭和五十六年)八月二十七日朝、中央聖書学校教授、仁司延三師は白血病のため、四十二才の若さで召された。先生はいわゆる新進気鋭の神学者であった。長年米国に留学し、豊かな学識をもっておられた上に、そのあた、かい人柄は若い学生達の敬慕のま



家庭において

本田 勝 宏

神学生が教授と親しく接することが出来るのは、授業の時と、教会派遣の時である。その人柄を知るのは、ほんの少しの時間である。そういうなかで仁司先生と二神学生との間のいくつかの出来事を紹介し、ありし日の先生をしのぶがしたい。

ある時、K神学生が先生に冗談を言った。先生はこの冗談がなぜか気に入ったようで、先生も冗談を飛ばされた。われわれ神学生には、先生はまじめで冗談も言わないかのように写っていた

ものだから、これには少なからず驚かされた。特に二年間先生に教えられたクラスの神学生は、先生があんな冗談を言われるなんて思いもよらなかったと言っていた。

しかし、先生はそのような柔らかい面を持つてはいたが、神学生教育にきびしいものがあつた。これはほんの一例なのだが、K神学生が先生のご息与志矢君と礼拝後親しく交わりをしていた時のことであつた。何かを見せようと自分の部屋に案内しようとした時、先生はきびしく「与志矢のためにKくんは派遣されているのではないぞ」と与志矢君を叱られたことがあつた。K神学生はあとで「あの時、先生は与志矢君を叱ったのではない、私を叱ったのだ」と言っていた。ところが一日の奉仕が終わると、先生は与志矢君との交わりを自由にさせた。時には、自分の部屋にK神学生を案内し、昆虫の標本や、ご自分で釣ったふななどを見せ

た。そして目を輝かせて、その一つ一つの説明をなさつたのである。このように、先生は公私の区別を、ご自分の家族に対しても、神学生に対してもはつきりとなさつておられたのである。これらのことは、仁司先生について知るところのほんの一部である。しかし、こういう先生の一面は、われわれ神学生にとつて、後日の牧会伝道に大きな影響を与えるものと信じている。

教室での仁司先生

能 城 一 郎

入学して初めて受けた講義の一つが先生の「旧約概論」であつた。先輩たちから、先生は大学生のとき昆虫学を専攻されたと聞いていた。そこで先生は、はたしてどのように聖書を教えて下さるのだろうかと思つた。ところが初めの講義の日、あの優しい丸顔にメガネをかけた先生がファイルを開いて「さあ、まず講義をしましょう」と言われた。私たちは皆で「主はすばらしい」を賛美した。その後も先生はよく講義の前に賛美された。先生と一緒に賛美すると、いつも主の深い臨在を感じ、心燃やされて教えを受けたことを思い出す。講義はわかり易く、先生の語られるひとつひとつの言葉を

聞きながら頭の中にもう一度描くように、その内容が組み込まれて行くという授業であつた。また先生はよく私たちの質問を受けて下さつた。どんな質問にも丁寧に心よく答えて下さり、ひとりひとりの学生の中にあるものを引き出して下さつた。学生にとつて辛くもあり、また楽しかったのはレポートの提出であつた。先生は私たちのレポートを隅々まで読んで下さつた。なによりもうれしかったのは、レポートが返えつてくるとき、その評価だけでなく、必ず何か励ましの言葉が最後のページに書き添えて下さつてあつたことだ。その添えられた言葉によつて私たちは強く励まされた。残念なことに、このすばらしい講義も数回を残し中断されることになった。私たち三十三期生は、先生の講義を受けた最後の学生となつてしまった。しかし、仁司先生のあの笑顔、先生と一緒に賛美したあの時、そして「昆虫を観察するのと同じように、聖書の研究には、伝道者は鋭い観察力が必要なのです。観察力を養いなさい」と最初の講義のときに語られたあの言葉は決して忘れることはできない。C・B・Cに入學し、仁司先生と出会い、そのすばらしい教えを受けられたことはほんとうに幸いでした。主に心から感謝しています。